

1 1 1 《岩窟の聖母》 描き直された理由

画面が暗い

2017・2024

真鍋友範



《岩窟の聖母・ロンドン版》

- * レオナルド・ダ・ヴィンチ作
- * レオナルドの元絵には、光輪も、洗礼者ヨハネの杖なども無かった。



《岩窟の聖母・ルーブル版》

- * レオナルド工房の弟子たちの合作
- * デッサン技術が、明らかに劣っている。

1 一目瞭然

【聖母無現在御宿り信心会が、岩窟の聖母を受領拒否した理由】は何だったか。それは、以下の3点であった伝えられている。

- 1 画面が暗い
- 2 イエスがどこにいるのかわからない。
- 3 (聖人の図像がなく、) 聖性が認められない。

画面が暗い方の作品は、通常は誰が見ても明確だ。

最初に描かれたのは、ロンドン版の方だ。

つまり、こちらは、レオナルド・ダ・ヴィンチの直筆ということになる。

問題は、描き直したことにより、変化した部分の描写内容だ。

例えば、明るくなったことにより、ルーブル版の天使の足元が明るくなった。

その結果、そこに天使の足元を描く必要が生じた。

その部分のデッサンを見ると、天使の右足が、デッサン上あり得ない位置に描かれている。レオナルド・ダ・ヴィンチの描いた天使とは、通常認められるようなレベルの描画ではない。

つまり、【ルーブル版は、レオナルド・ダ・ヴィンチの描いた作品ではない】のだ。

ルーブル美術館学芸員は、《岩窟の聖母・ルーブル版》の画像レベルを自覚していない。

結論として、ルーブル美術館は、《岩窟の聖母・ルーブル版》をレオナルドの真作と主張しているが、これは完全な誤りなのだ。

その理由はこうだ。

《キリストの洗礼》は、ヴェロッキオ作とされるが、内実は、レオナルドを含めた工房の弟子たちの合作部分が大部分を占めているとされる。ヴェロッキオが描いていなくても、ベロッキオ工房の作品なら、ヴェロッキオ作とされたのと同様、フランス側からの侵略により、レオナルドがミラノを離れた後の、レオナルド工房に残された《岩窟の聖母・ロンドン版》を元に、工房の弟子たちがコピー作品としてのルーブル版を合作したと認識されるべきなのだ。

つまり、ルーブル版について、許される主張は、【伝レオナルド工房作品】までであり、決して【レオナルド真作と主張できるレヴェルの絵画内容ではない作品】なのだ。

【レオナルド・ダ・ヴィンチの《岩窟の聖母》直筆とは、ロンドン版であると

いう事実】を、しっかり美術史家が認識しなければ、【どちらが先に描かれたか論争】は、始まりもしないのだ。

二枚の《岩窟の聖母》を同列に並べ、どちらもレオナルドの直筆だと信じる美術史家には、もうこれ以上《岩窟の聖母》を議論する能力はない、と自覚すべきなのだ。